

第2章

スリンプル・プログラムの 概要



スリンプル・プログラムとは

(1) 現代の子どもの“かかわりの力”と私の研究

昭和から平成を経て、令和の時代を迎えた今、“子どもを囲む”家庭・地域環境は以前とは大きく様変わりしました。厚生労働省調査で明らかになっている“核家族”“一人親”世帯の増加、また、「隣に住んでいる人のことは知らない」等、地域の人的交流機会も減少してきています。これらのことを鑑みれば、現代の子どもは、以前に比べれば「人とのかかわり体験が不足している」…。私はこのようにとらえています（もちろん、家庭・地域によっては、私が子どもだった頃同様、大勢の大人が“子どもを囲む”環境が整っているでしょうが…）。

人との十分なかかわり体験がなければ、子どもは“かかわりの力”を身につけることは難しいでしょう。“かかわりの力”を構成する要素として、私の研究過程（曾山、2010）で明らかになったのは「自尊感情」「ソーシャルスキル」の2つです。いずれも、人とのかかわりを通さなければ育むことは難しいものであり、これらの低さ・乏しさが学校不適応（不登校・いじめ）、通常学級に在籍する“気になる子”の問題につながっていると私はとらえています。それゆえ、子どもの“かかわりの力”を育成するにはどうすればよいのか…、この1点が私の現在の研究の一番の関心事であり、これから後もずっと考え続けたいテーマでもあります。

(2) スリンプル・プログラムのベース実践校

平成19（2007）年、大学教員として着任後、各地の小・中学校の研究実践に携わることが多くなりました。それらの学校の中で忘れ

られない学校の1つが、第1章でもふれた愛知県A小学校です。子どもの“かかわりの力”を育成する具体方策として生まれたのが「SSTタイム」。“人づきあいのコツ・技術”であるソーシャルスキルに焦点を当てた週1回10分のかかわり活動です。当時の校長先生、先生方と一緒に知恵を絞り、創りあげた「SSTタイム」は、平成21（2009）年の公開研究会にて参加者から絶賛され、私は、その概要を拙著『時々、“オニの心”が出る子どもにアプローチ 学校がするソーシャルスキル・トレーニング』（曾山、2010）にまとめました。

また、愛知県刈谷市立依佐美中学校も忘れられない学校の1つです。生徒の不適応状況を改善したいという、先生方の思いがひしひしと伝わり、私自身、「少しでも役に立ちたい」と気持ちが動いた学校でした。その依佐美中が創りあげた活動が「よさっぴタイム&よさっぴトーク」です（第4章I参照）。週1回10分のかかわり活動の実践は、「SSTタイム」と同様ですが、各教科等におけるペア・グループワークとの“連動”が新たな試みでした。

連動の具体は、例えば、社会の授業で「(教員)日本の歴史の中ではいろいろな身分が出てきましたね。どんな身分がありましたか?」→「(教員)はい、20秒のよさっぴペア・トーク!」→生徒が20秒のペア・トーク実施、というように展開します(曾山、2016)。

スリンプル・プログラムのベースはこの「よさっぴタイム&よさっぴトーク」にあります。

(3) スリンプルとは“スリム&シンプル”

子どもの“かかわりの力”を育成するためには、さまざまなかかわりの機会・場を用意することが大切です。学級・学年等、多くの人が集まる場である学校は、工夫一つでかかわりの機会を子どもに

提供することができます。しかし、そうした機会・場の提供が、教員・子どもにとって負担がかかるものであるとしたら、導入も継続もうまくいきません。さらに、働き方改革が叫ばれる昨今、新しい取り組みの導入は、教員に「これ以上、われわれに何をしろと言うのか」等々、後ろ向きの気持ちを抱かせる可能性も高いと推測されます。このような点を考慮した上で、子どもの“かかわりの力”育成のための具体方策として開発したものが「スリンプル・プログラム」(以下、スリンプル)です。

「活動自体が“スリム”であれば導入しやすく、長続きする。“シンプル”であれば、教員の誰もが実践でき、“気になる子”を含むすべての子どもが取り組める」と考え、創った造語が「スリム (slim) & シンプル (simple) = 「スリンプル (simple)」です。

(4) スリンプルの2本柱

子どもの“かかわりの力”育成をめざすスリンプルは、次の2本柱から構成されます。

- ・〇〇タイム：週1回10分の短時間グループアプローチ
- ・〇〇トーク：各教科等におけるペア・グループ活動

「〇〇タイム」は、子どもにとっては週1回打ち上げられる“花火”のようなもので、“遊び”のようにとらえられるものです。しかし、教員は遊んでいません。「ねらいをもって子どもの前に立つ」活動です。主なねらいは「ソーシャルスキル育成」ですが、活動の中で、教員や友達からほめ言葉・認めの言葉がかかるため「自尊感情育成」もねらえるものとなっています。

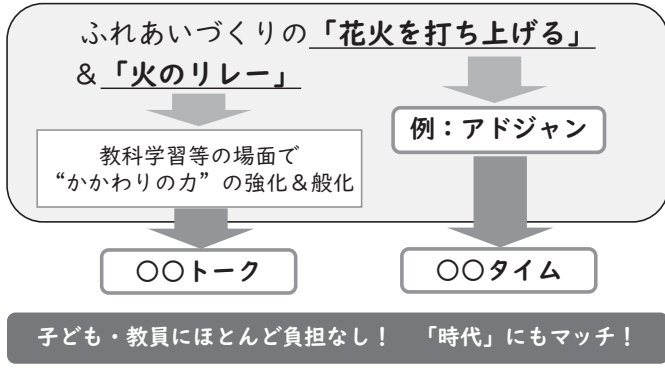
そして「〇〇トーク」は、教科学習等の場面で“かかわりの力”

スリンプル

(slim & simple) プログラム



- 花火：週1回10分 & ゲーム感覚で楽しむ
短時間グループアプローチ（SST&SGE活用）
- 火のリレー：各教科等におけるペア・グループ活動



* SST：ソーシャルスキル・トレーニング

* SGE：構成的グループエンカウンター

* アドジャン：SGEで活用されることの多いエクササイズ（滝沢、1999）

を強化&般化する“火のリレー”です。

上の図は、スリンプルの概要がイメージしやすいように作成したものです。



「〇〇タイム」を支える理論・技法とは

(1) “I think”の前には理論が必要

恩師・國分康孝先生に学んだ「“I think”の前には理論が必要」は、私の座右の銘の1つです。体験のみから“I think”を語っていると、いつまでもそのブレが止まりません。私が“かかわりの力”の構成要素としてとらえている「自尊感情」「ソーシャルスキル」の